

## 琵琶湖総合保全部会の活動概要

### 1 令和元年度の部会開催状況

月 日	議 事 等
令和元年 11月25日	琵琶湖保全再生計画に係る取組について マザーレイク21計画の進捗状況について 琵琶湖保全再生計画とマザーレイク21計画の今後について 琵琶湖保全再生計画の改定に向けて マザーレイク21計画のふりかえりと今後のあり方について
令和2年 3月9日 新型コロナウイルス感染症対策のため中止 書面で意見照会を実施	マザーレイク21計画のふりかえりについて (仮称)マザーレイクフレームワークの骨子イメージ(案)について 琵琶湖保全再生計画のフォローアップの状況および琵琶湖保全再生法、計画等の見直しに係る基本的方針(案)について

### 2 令和2年度の部会審議予定

令和2年6月下旬

- ・ 琵琶湖保全再生計画の改定に向けて
- ・ 琵琶湖保全再生計画(現行計画)の総括について(フォローアップの中間報告)
- ・ (仮称)マザーレイクフレームワークの構築について

令和2年9月上旬～中旬

- ・ 琵琶湖保全再生計画(現行計画)の総括について(フォローアップの結果報告)
- ・ 琵琶湖保全再生計画(改定素案)について
- ・ (仮称)マザーレイクフレームワークの構築について

令和2年11月中旬予定

- ・ 琵琶湖保全再生計画(改定答申案)について
- ・ (仮称)マザーレイクフレームワークの構築について

## 琵琶湖保全再生計画に係る取組について

令和元年度 琵琶湖保全再生計画関連事業

琵琶湖保全再生計画に関する関連事業を実施。

令和元年 5月21、22日 政策提案（春）

令和元年 11月6、7日 政策提案（秋）

「令和2年度に向けた琵琶湖の保全および再生についての提案・要望」として、琵琶湖保全再生計画の重点事項である琵琶湖を「守る・活かす・支える」の3つの柱に基づき、春は12項目、秋は8項目をとりまとめて提案・要望を実施。

令和元年 8月2日 琵琶湖保全再生の推進にかかる関係府県市担当者会議

琵琶湖保全再生推進協議会幹事会を構成する下流府県市の担当者レベルで意見交換や情報交換を行うため、滋賀県内で会議を開催。会議後に湖上等の視察を実施。（平成30年度に引き続き2回目、視察は初開催）

令和元年 9月4日 県・市町琵琶湖保全再生計画推進会議

琵琶湖保全再生計画を推進するにあたり、県と市町が意見交換や情報共有を行うため、会議を開催。（平成29、30年度に引き続き3回目）

令和元年 9月9日 第3回琵琶湖保全再生推進協議会幹事会

「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」に基づき組織する「琵琶湖保全再生推進協議会」の目的を達成するために、関係省庁、滋賀県および下流域の関係府県市に出席いただき、長浜市で開催（湖北で初開催）。また、会議の前に、ピワイチサイクルステーションや県水産試験場、北湖などの視察を行った。



令和元年11月7日には、小泉進次郎環境大臣に「令和2年度に向けた琵琶湖の保全および再生についての提案・要望」を実施しました。

マザーレイク 21 計画の進捗状況について  
(「びわ湖なう 2019」より一部抜粋)

…本レポートでは、マザーレイク 21 計画に挙げられた全 128 指標のうち、環境や社会の状態を表す指標（アウトカム指標）であること、経年変化が把握できること、計画に掲げられた 2020 年度（令和 2 年度）の目標との関連が深いこと、という 3 つの視点から、琵琶湖と暮らしの健全性を評価する上で「鍵となる指標」の選定を行います。関連の深い指標はできるだけまとめ、カテゴリーごとに評価します。

評価は、「いまどのような状態にあるのか」および「これまでの傾向はどうか」という 2 つの観点から行います。また必要に応じて北湖および南湖に区別します。

\*\*\*\*\*

「湖内」「湖辺域」「集水域・暮らし」における鍵となる指標を抽出し、後述の 12 のカテゴリーに分類して評価を行いました。その結果をまとめたものが右の表です。北湖と南湖で評価が分かれる場合は、上下 2 段（上：北湖、下：南湖）に分けて評価を記入しています。

琵琶湖や集水域の環境を全体として見たとき、河川の水質などの状況は改善傾向が見られ、状態としても悪くはないと考えられる一方で、在来魚介類の漁獲量や希少野生生物種などは悪化傾向にあるなど、項目により状態や傾向が異なることが分かります。琵琶湖の水の清らかさは長期的に見れば改善していますが、近年は年により状況が大きく異なっています。南湖で 2000 年頃から大量繁殖して問題となった水草（沈水植物）は、ここ数年減少傾向が見られます。私たちの暮らしについては、環境と調和した農業や県産材の利用が進む一方で、情勢の変革の中で一次産業の従事者数は減少傾向にあり、自然と関わり生産を共にする暮らしづくりが少なくなりつつあります。比較的対策のしやすい、あるいは対策の効果の現れやすいものについては、アウトカム（環境や社会の状態）としても結果が出ている一方で、そうでないものは依然として厳しい状況にあると言えます。

高度経済成長期以前は、十分なデータがなく、また概念的ではありますが、水は現状と同程度あるいはそれ以上に澄み、同時に在来の生きもので豊かな琵琶湖があったと考えられています。琵琶湖が富栄養化していた時代、水中にある過剰な窒素やリンの量を減らせば、同時に生きものにとってもよい環境になると考えられていました。確かに様々な取り組みにより、琵琶湖は富栄養な状態を脱することはできましたが、在来の生きものは戻ってくるどころかむしろ減少してきました。この原因ははっきりとは分かっておらず、外来魚の増加や生息環境の悪化などの直接的な影響の他、水質そのものが食物連鎖を通じて生きものに影響を与えている可能性もあります。赤潮は減少してきたものの、植物プランクトンの種類は大きく変化し、漁網に異常な汚れが付着するようになりました。底質についても、泥質化傾向を疑わせるデータが出てきています。いずれにせよ、琵琶湖は「生態系のバランスが崩れてきた」不健全な状態にあり、その解決のためには、より総合的な視野に基づくアプローチが求められます。

表 琵琶湖と暮らしに関わる「鍵となる指標」の評価結果

分類	指標（カテゴリー）	State - 状態 -				Trend - 傾向 -			
		よい	悪くはない	悪い	評価できない	改善している	変わらない	悪化している	評価できない
湖内	琵琶湖の水の清らかさ		■						◇
	琵琶湖の植物プランクトン		■						◇
	琵琶湖漁業の漁獲量（魚類等）			■				➡	
	琵琶湖の底質	北湖				■			
南湖								➡	
湖辺域	琵琶湖の水草（主に沈水植物）	北湖			■				◇
		南湖							
	琵琶湖のヨシ		■			➡			
	琵琶湖漁業の漁獲量（貝類）			■				➡	
	希少野生生物種			■				➡	
集水域・暮らし	河川の水質		■			➡			
	一次産業（就業者数・生産額）			■				➡	
	環境と調和した農業		■			➡			
	森林の状況				■				◇

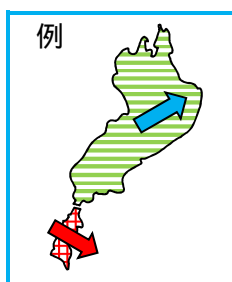
「State - 状態 -」の評価

	<b>GOOD (よい)</b> 目標値を達成している等、よい状態にあることを示す
	<b>FAIR (悪くはない)</b> 目標値には達していないが、悪くはない状態にあることを示す
	<b>POOR (悪い)</b> 目標値には遠く、悪い状態にあることを示す
	<b>UNDETERMINED (評価できない)</b> データが不十分、見方により変わる等の理由で評価ができないことを示す

「Trend - 傾向 -」の評価

	<b>IMPROVING (改善している)</b> 経年的に改善傾向にあることを示す
	<b>UNCHANGING (変わらない)</b> 経年的な傾向が明確には見られないことを示す
	<b>DETERIORATING (悪化している)</b> 経年的に悪化傾向にあることを示す
	<b>UNDETERMINED (評価できない)</b> データが不十分、見方により変わる等の理由で評価ができないことを示す

各指標（カテゴリー）の評価の見方

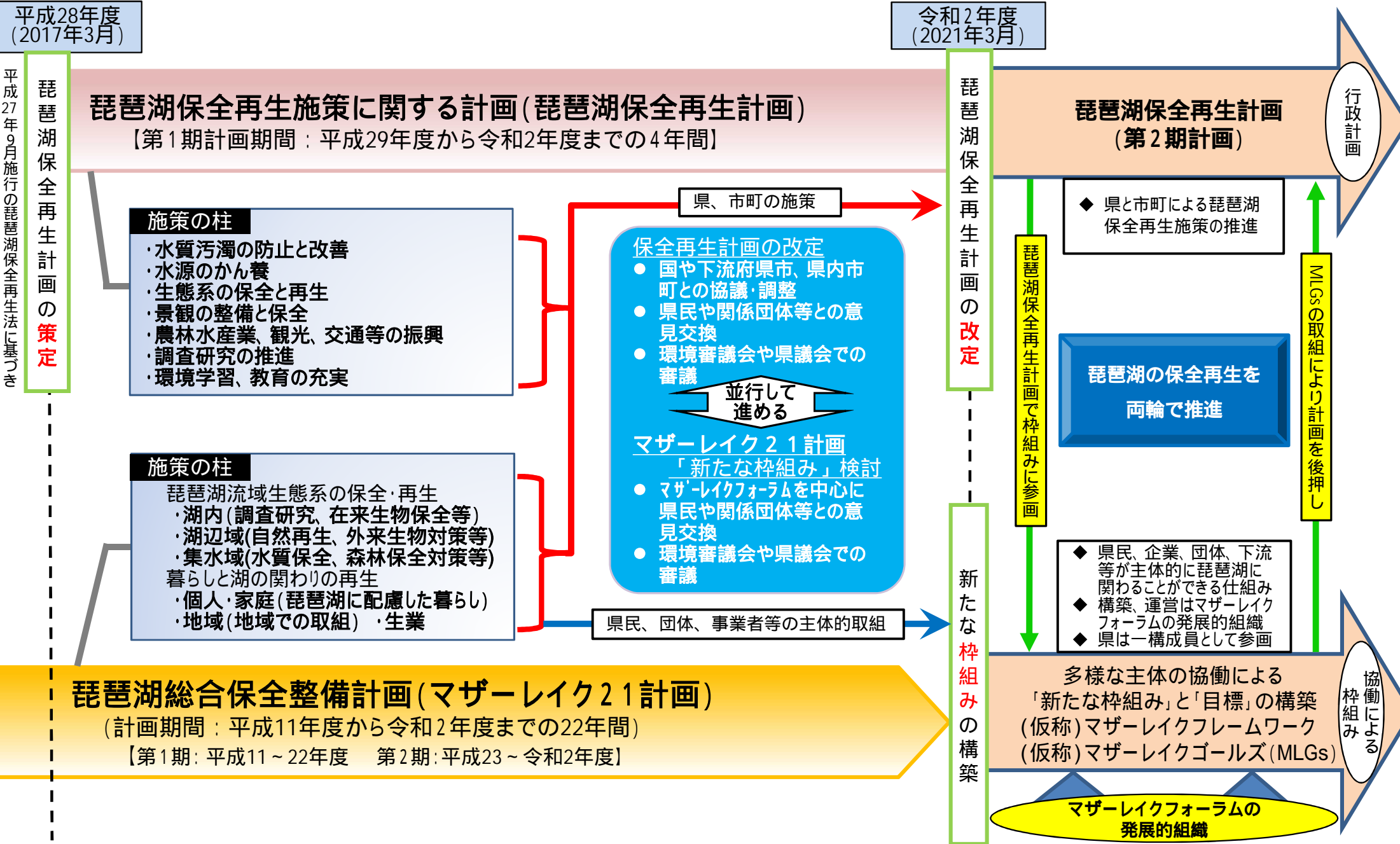


次ページ以降に、各指標（カテゴリー）の評価を左図のような形で北湖と南湖を分けて掲載しています。例えば左図の場合、評価結果は以下の通りとなります。

北湖：状態は悪くはなく、また傾向としても改善している

南湖：状態は悪く、また傾向としても悪化している

# 「琵琶湖保全再生計画」と「マザーレイク21計画」の関係と今後について





# (仮称)マザーレイクフレームワークの骨子イメージ

## 1. 目的

行政を含む多様な主体が、共通の目標(マザーレイクゴールズ)に向かって様々な形で「主体的」に琵琶湖に関わるための枠組み「(仮称)マザーレイクフレームワーク」を構築し、適切な環境への関わりを創出し、取組を推進することを目的とする。また、マザーレイクフレームワークはSDGsの取組の具体的展開の一つでもあり、持続可能な社会の構築にも貢献するものである。

## 2. フレームワークの位置づけ

マザーレイクフレームワークは、多様な主体による琵琶湖の保全再生に向けた様々な取組を後押しするための枠組みであり、県は琵琶湖保全再生計画等に基づき実施する施策との両輪で琵琶湖の保全再生を推進していく。

## 3. 取組の方向性

多様な主体が琵琶湖の現状や課題を共有し、共通の目標に向けて各自ができることで琵琶湖に関わることで、創発<sup>(1)</sup>の形で多様な活動が展開されていくことを目指す。

創発: 個々の取組の単純な総和にとどまらない成果が全体として現れること

## 4. 基本理念

(マザーレイク21計画から継承)

琵琶湖と人とが共生する健全な状態を、持続可能な形で次世代に継承していくことを、琵琶湖に関わる全ての人々との間で共有する。

基本理念: 「琵琶湖と人との共生」  
(琵琶湖を健全な姿で次世代に継承します)

この基本理念は、県の基本構想や第5次環境総合計画にも通じるものであり、琵琶湖保全再生計画に示された、活力ある暮らしと保全との「共存」、人々の幅広い「共感」、琵琶湖の価値の「共有」のもとで進める。

## 5. 2050年頃のあるべき姿

(マザーレイク21計画から継承)

基本理念に基づく2050年頃の琵琶湖のあるべき姿を、「活力ある営みの中で、琵琶湖と人とが共生する姿」とし、多様な主体との間で共有しやすいものとするために具体化したイメージを描くこととする。

(例)

琵琶湖の水は、あたかも手ですくって飲めるように清らかに、満々として

春には、固有種のホンモロコヤニゴロブナ等がヤナギの根っこ、ヨシ原、増水した内湖や水路等で産卵し、周囲の山並みは淡緑、淡黄等のやわらかな若葉と、常緑の樹々との鮮やかな彩りをみせ

夏には、緑深い山から吹く風が爽やかに湖面をわたり、湖辺の公園では、水遊びする人びとの姿が見られ、足もとにはさらさらした砂地と固有種セタンジミの感触

秋には、固有種のピワマスが体を赤く染めて河川や水路を山里深く遡上して、豊かな森の土に育まれた水量豊富な溪流で産卵し

冬には、えり漁を背景にカモが群れ遊び、湖辺では荒田起こしの作業の側で、サギが餌をついばむ

目を転じれば、街中には四季を通じて小川が清らかに流れ、夏にはホテルが舞い、遠くから祭の囃子が聞こえ

……

## 6. マザーレイクゴールズ

(びわコミ会議でのコミットメントなどをもとに設定)

### 2050年頃の琵琶湖のあるべき姿



(例)

2050年頃の琵琶湖のあるべき姿に向けた、2030年までに達成する目標(琵琶湖版SDGs)

- 「生物にとって棲みよい水に」
- 「増えすぎた水草を減らす」
- 「適正に保全・管理された森林を増やす」
- 「外来動植物を減らす」
- 「在来魚介類のにぎわう湖に」
- 「ヨシ群落を保全する」
- 「湖岸景観を守る・活かす」
- 「ごみのない美しい琵琶湖に」
- 「CO2ゼロで気候変動から琵琶湖を守る」

……  
(個々の目標は、多様な主体のみなさんの意見をもとに今後決めていく)

## 7. 参画の主体と方法

マザーレイクフレームワークへの参画は、企業やNPO、個人など、琵琶湖に想いを寄せる全ての主体を対象とする。

多様な主体は、マザーレイクゴールズの達成に向けて、各々の取組や活動を琵琶湖との約束(コミットメント)として宣言する。

宣言は、WEBサイトなどから登録し、多様な主体との間で共有する。

(コミットメントの例)

当社はMLGsに掲げられた「生物にとって棲みよい水に」の目標達成のため、最新の排水処理技術を採用します。

## 8. プラットフォーム

(マザーレイク21計画から継承)

多様な主体が集うプラットフォームは、マザーレイク21計画に位置付けられた「マザーレイクフォーラム」を拡大する形で継承する。

この新しいマザーレイクフォーラムでは、琵琶湖との約束を宣言した個人や企業、団体が、必要な情報の交換や連携、協力をを行う場とする。

また、琵琶湖の現状や課題、多様な主体による取組の状況などを共有する「びわコミ会議」などを実施する。

## 9. 多様な活動の創発

暮らしの中で琵琶湖との関わりが希薄となっていることから、行政が設定した課題に対して参加を呼び掛ける目的合理<sup>(1)</sup>的な手法だけではなく、多様な主体が興味を持ち自発的に行う取組を後押しする形態合理<sup>(2)</sup>的な手法で参画を促していくことも有効と考えられる。

例えばマザーレイクゴールズにつながる様々な「プロジェクト」により、創発的で多様な活動を促すことなどが考えられる。

(例)水草資源の地域循環プロジェクト

1目的合理: 目標を掲げてそのために行動すること

2形態合理: 活動への参加そのものに価値を見出し、行動すること

## 10. 推進のための仕組み

「学術フォーラム」や「びわコミ会議」を開催し、多様な主体の参画のもとで様々な指標をもとに「琵琶湖の健康診断」を行い、達成状況をフォローアップする。

学術フォーラム

学識経験者により構成し、学術的な観点から、琵琶湖と暮らしの現状を分析・評価する

びわコミ会議

年に一度多様な主体が集い、琵琶湖の現状や課題、取組の状況などを共有し、次の取組につなげる場とする

こうした場において、琵琶湖の現状や多様な主体による取組の状況について議論し、必要に応じて、マザーレイクゴールズの見直しや追加などについても検討する。

## 11. インターネットを活用した情報の可視化

インターネットを活用した情報発信や、参画の可視化を進める。

参画を可視化(見える化)することにより、琵琶湖に関わる活動の広がり、個々の小さな取組がより大きな成果につながっていることを実感し、取組のモチベーションの向上につなげる。

## 12. マザーレイクフレームワークの策定

策定の時期: 令和3年(2021年)3月

策定の場: 趣旨に賛同する多様な主体のみなさんが参加する場で採択

「(仮称)マザーレイクフォーラム2021」

## 琵琶湖保全再生計画のフォローアップの状況について

### 1 検討状況（令和元年7月～令和2年3月）

- ・ 庁内調整
    - 琵琶湖保全再生推進本部ワーキンググループ会議 3回
    - 琵琶湖保全再生推進本部幹事会議 1回
    - 琵琶湖保全再生推進本部本部員会議 1回
  - ・ 県市町琵琶湖保全再生計画推進会議 2回
  - ・ 琵琶湖保全再生に係る関係府県市担当者会議 1回
- 主務省庁とは随時協議を実施

### 2 整理内容（案）

概ね計画の中項目または小項目 あるいは（裏面ゴシック字部分）ごとに、下記の項目を整理する方向で作業中

項目	整理のポイント
(1) 現状	・ マザーレイク 21 計画など県の計画で用いている関連のアウトカムに関するデータ等を用いて整理
(2) 取組の概要	・ 琵琶湖保全再生計画の各項目の記述を転記または要約して整理
(3) 主な取組実績	・ アウトカムへの影響が大きい取組や、施策量が大きい取組等を中心に整理 ・ 平成 28 年度（法制定の翌年）以降に実施してきた施策量をできるだけ数値化して整理（施策量を数値で示すことが難しいものは施策内容を整理）
(4) 取組の成果と課題	・ 『(3) 主な取組実績』に記載した取組により得られた成果および課題を整理 ・ 計画策定前からの取組であっても、基本的に計画策定後に得られた成果および課題を中心に整理 ・ 成果はアウトカムが望ましいが、難しい場合はアウトプットにより整理 ・ 取組を進める中で新たな課題が生じている場合には、新たな課題を抽出して整理
(5) 取組の評価	・ 『(4) 取組の成果と課題』に記載された成果および課題を踏まえた項目全体の評価を簡潔に整理（4段階で評価することも検討）
(6) 今後の取組の方向性	・ 『(5) 取組の評価』を踏まえ、適切と考えられる今後の方向性や事業展開等について整理

(参考) 琵琶湖保全再生計画の構成

計画の項目				
大項目	中項目	小項目	小項目	
3 琵琶湖の保全および再生のための事項	(1) 水質の汚濁の防止および改善に関する事項	持続的な汚水処理システムの構築		
		面源負荷対策		
		流入河川・底質改善対策		
		その他の対策		
	(2) 水源のかん養に関する事項	水源林の適正な保全および管理		
		森林資源の循環利用による適切な森林整備の推進		
		森林生態系の保全に向けた対策の推進		
		農地対策		
		その他の対策		
	(3) 生態系の保全および再生に関する事項	湖辺の自然環境の保全および再生	ア ヨシ群落の保全および再生	
			イ 内湖等の保全および再生	
			ウ 砂浜、湖岸、湖岸の緑地の保全および再生	
		外来動植物による被害防止	ア 外来動植物全般の対策	
			イ 外来動物対策	
			ウ 外来植物対策	
		カワウによる被害防止等		
		水草の除去等	ア 水草の除去等	
			イ 湖岸漂着ごみ等の処理	
		ウ 湖底の耕うん、砂地の造成等		
	生物多様性の保全の推進			
	陸水域における生物生息環境の連続性の確保			
	(4) 景観の整備および保全に関する事項	琵琶湖を中心とした景観の整備および保全		
		文化的景観の保存および整備		
	(5) 農林水産業、観光、交通その他の産業の振興に関する事項	環境に配慮した農業の普及その他琵琶湖の環境と調和のとれた産業の振興	ア 環境に配慮した農業の普及	
			イ 山村の再生と林業の成長産業化	
			ウ 琵琶湖の環境と調和のとれた産業の振興	
		水産資源の適切な保存および管理	ア 漁場の再生および保全	
イ 在来魚の産卵条件に即した増殖環境のあり方の検討				
ウ 水産動物の種苗放流				
エ 資源管理型漁業の推進				
オ 琵琶湖や河川における漁業の持続的発展				
観光、交通その他の産業に関する事項		ア エコツーリズムの推進等		
		イ 琵琶湖の特性を活かした観光振興等		
	ウ 湖上交通の活性化			
4 琵琶湖保全再生施策の実施に資する調査研究に関する事項				
5 琵琶湖保全再生施策に取り組む主体その他琵琶湖保全再生施策の推進体制の整備に関する事項	(1) 住民、事業者、特定非営利活動法人等の多様な主体による協働の推進に関する事項	多様な主体の協働と交流の推進		
		住民、特定非営利活動法人等への活動支援		
(2) 琵琶湖保全再生施策の推進体制に関する事項				
6 琵琶湖保全再生施策の実施に資する体験学習を通じた教育その他の教育の充実に関する事項	(1) 体験型の環境学習の推進			
	(2) 教育の振興			
	(3) 広報・啓発の実施			



## 琵琶湖保全再生法、計画等の見直しに係る滋賀県の基本的方針

### 1 課題と基本的な考え方

水質は改善傾向にあるが、在来魚介類の減少や水草の大量繁茂、外来生物の侵入・定着など 生態系の課題（＝法制定前からの課題）が顕在化、プラスチックごみや、気候変動に伴う未経験の水質現象（全層循環の不全、豪雨・少雨や高温等による南湖における植物プランクトンの特異的な増殖）など琵琶湖への影響が懸念される 新たな課題（＝法制定後に表れてきた課題）が顕在化

これらを踏まえ、県環境総合計画の目標である「環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環」に向け、「良好な水質と豊かな生態系が両立する新たな琵琶湖政策」の観点から、必要な見直しを進める。

### 2 法改正に係る滋賀県の認識

生態系の課題については、法制定時に想定されており、各条文に具体的な対策が明記。

新たな課題については、

- ・プラスチックごみは、法第 15 条に「湖岸に漂着したごみ等の処理」「湖底の底質の保全及び改善のため、必要な措置を講ずる」との規定があり、これに包含されると思料。
- ・気候変動は、現時点では琵琶湖への影響に対する直接的な対策がなく、琵琶湖の保全再生施策との間に距離があると思料。

琵琶湖総合開発特別措置法にあった補助率の嵩上げと下流負担金については、法制定時にも議論されたが、今回も規定することは困難と思料。



取り組むべき課題はあるが、法制定後、法改正の要件を満たすほどの状況変化はないと認識。

### 3 滋賀県の対応方針

- (1) 国が「法律等のフォローアップ」を実施する過程で、県の課題認識をしっかりと国に伝える。
- (2) 来年度末で終期を迎える琵琶湖保全再生計画（県策定）の改定に向けた検討と並行し、国で定めていただいた「基本方針」の見直しについて、引き続き国と協議。
- (3) 琵琶湖保全再生計画については、1で示した基本的な考え方に基づき、プラスチックごみや気候変動など新たな課題への対応を盛り込むことや、国や県の関連する計画の改定状況を反映することなどにより、さらに充実した計画となるよう改定。

# 琵琶湖保全再生計画の改定に係る主なポイントについて

## ○計画期間

・令和3年度（2021年度）～令和7年度（2025年度）の5年間

## ○関連計画の改定状況の反映

・国の第五次環境基本計画（平成30年策定）で示された「**地域循環共生圏**」や第五次滋賀県環境総合計画（平成31年策定）の目標である「**環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築**」の視点を盛り込む。

**生態系から得られる恵みを、経済、社会の中での活用につなげ、健全な循環を作るという視点に立った「新たな琵琶湖政策」の展開**



環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環

## ○新たな課題への対応の位置付け

・**プラスチックごみや気候変動に伴う未経験の水質現象**（全層循環の不全、底層DOの低下、豪雨・少雨や高温等による南湖における植物プランクトンの特異的な増殖等）など**琵琶湖への影響が懸念される新たな課題への対応を位置付け**。  
プラスチックごみ削減のための広報・啓発、琵琶湖のモニタリングの効果的な実施、窒素やりんを削減すべき対象として捉えるだけでなく、在来魚介類につながる琵琶湖の食物連鎖を支える植物プランクトンに必要な物質として捉え、良好な水質と豊かな生態系が両立する水質管理手法の構築など

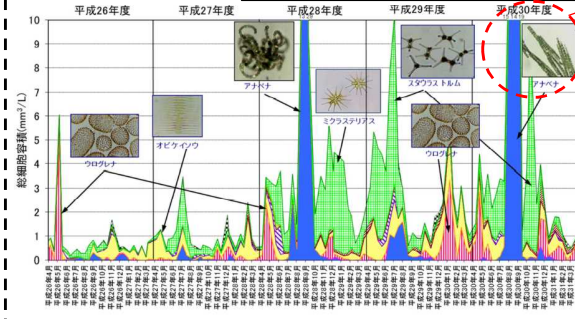
### プラスチックごみの状況



	重量(kg)	重量(%)	体積(L)	体積(%)
<b>全体</b>	<b>322.17</b>	<b>100.0%</b>	<b>2,231</b>	<b>100.0%</b>
<b>プラスチックごみ</b>	<b>170.41</b>	<b>52.9%</b>	<b>1,662</b>	<b>74.5%</b>
袋類	74.43	23.1%	530	23.8%
農業系プラスチックごみ(あぜ板)	14.68	4.6%	165	7.4%
プラスチックごみ内訳	32.95	10.2%	405	18.2%
トレイ・容器類	4.24	1.3%	180	8.1%
ペットボトル	1.02	0.3%	45	2.0%
その他プラスチックごみ	43.09	13.4%	337	15.1%
<b>その他</b>	<b>151.76</b>	<b>47.1%</b>	<b>569</b>	<b>25.5%</b>

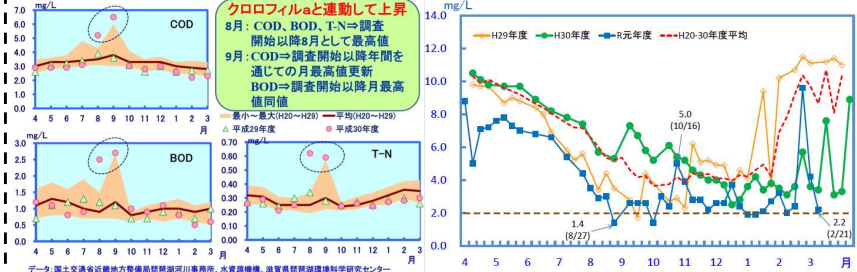
琵琶湖のプラスチックごみ実態把握調査  
(令和元年6月赤野井湾)

### 気候変動による影響



南湖で大增殖したアハナフィニス（上図）と一面緑に染まった南湖（下図）  
(令和元年8月)

南湖唐崎沖中央における植物プランクトンの総細胞数積の経月変動（表層）



南湖主要水質項目の経月変動（表層平均値）  
北湖代表点（今津沖中央）における底層DOの経月変動

## ○新たな協働の枠組の位置付け

・マザーレイク21計画（平成11年度～令和2年度）の次の展開としての「**（仮称）マザーレイクフレームワーク**」を多様な主体との協働の手法の一つとして位置付け

## ○その他検討事項

- ・計画策定時に議論になった事項（農業濁水など）や環境分野における国レベルでの新しい考え方の反映
- ・計画のフォローアップ結果を踏まえた反映
- ・その他、計画策定後の各施策を取り巻く状況の変化を踏まえた反映（森林経営管理法の施行、オーガニック農業の推進、「（仮称）持続的で生産性の高い滋賀の農業推進条例」の検討、「やまの健康」プロジェクトの推進、「滋賀の農林水産業」の日本農業遺産への認定と世界農業遺産認定に向けたFAOへの申請の承認、ピワイチのナショナルサイクルルート指定など）